



鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館
〒892-0853
鹿児島市城山町4番36号
TEL(099)224-3400



● 展示会の会期等はすべて、新型コロナウイルス感染症
● の地域の感染状況により変更になる場合があります。
● 詳しくは美術館ホームページでご確認ください。

無料開放日のお知らせ

毎月第3日曜日は、小・中学生の無料開放日です。所蔵作品展 + 小企画展を無料で鑑賞いただけます。3月20日(日)、4月17日(日)、5月15日(日)...



左：満田天民《菜の花》部分 1954年、右：宮之原謙《彩盛磁かざぐるま壺》部分 1975年

会期：4月1日(金)～5月5日(木・祝)
会場：企画展示室(2F)

花鳥風月とは自然の美しい風物を意味する言葉です。めぐりゆく季節とともに移ろう自然の姿は、古来より日本の美術・工芸の題材として愛されてきました。本展では三つの章構成で、鹿児島ゆかりの近現代作家による日本画と陶芸、金工にみる花鳥風月を紹介し...

第一章「花と鳥と一季節のうつろい」では、花と鳥をモチーフにした作品を、春夏秋冬をたどりながら展示します。第二章「風と月と一自然のすがた」では、さざ波や水の流れ、風のそよぎ、月の光、大気や虹といった、自然の現象をモチーフにした作品が集います。そして、第三章「花鳥風月をこ超えて」では、建築や重機などの人工物と草木花の組み合わせにより、自然の美を描写するにとどまらない表現の広がり注目します。

日本画と工芸、それぞれが響き合う空間をお楽しみください。



春の特別企画展

生誕100年 山下清展

会期：3月25日(金)～5月5日(木・祝)

会場：1階・一般展示室

山下清は1922(大正11)年、東京・浅草に生まれました。18歳で放浪の旅を始め、記憶に残った旅先での風景を緻密で色鮮やかな貼絵に描き、「放浪の天才画家」と称されました。31歳のとき、その画才に驚いたアメリカの写真誌が放浪中の清を捜索し始め、翌1954(昭和29)年1月、ここ鹿児島で発見されました。

本展示会では、「日本の原風景」と称される代表的な貼絵を中心に、独特の手法

春の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

特集：没後100年 橋口五葉⑤—五葉の見た夢—没後の動きと橋口康雄
会期：3月8日(火)～5月29日(日)

常設展示室では、春の所蔵品展として、印象派から現代までの西洋美術と郷土作家を中心とした近代以降の日本美術の所蔵品をご紹介します。特集コーナーは、橋口五葉の生誕140年/没後100年を記念して全5回にわたってご紹介してきた特集の最終回です。

1921(大正10)年、五葉は病により39歳という若すぎる死を迎えます。生前に完成した私家版木版画はわずか11点のみですが、少なくともあと18点は作品の構想を抱いていました。没後、五葉芸術の継承に大きく寄与した人物が五葉の長兄・貢の息子である橋口康雄です。東京美術学校西洋画科で学んだ康雄はイギリスでエッチングやリトグラフ、木版画を学びました。帰国後は光風会を中心に活動し、1948(昭和23)年に五葉版画研究所を設立、自身の制作の傍ら、五葉の原稿や版木の整理、作品の再版、残されていた主版や版下絵の版画化などに尽力しました。本展では、五葉没後の動向を中心に、康雄の作家活動もあわせてご紹介いたします。



橋口五葉《温泉宿》



「ロンドンのタワーブリッジ」貼絵、1965(昭和40)年 ©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2022

- で描かれた油彩、水彩画、ペン画など約150点を展示します。激動の昭和を自然体で生き、「今年の花火見物はどこに行こうかな」の言葉を最後に49歳で亡くなった天才画家の生涯をたどります。

観覧料

- 小・中・高校生 600円(前売り500円)
- 一般・大学生 1,200円(前売り1,000円)

年間パスポートでいつでも本物の作品に出会おう!

2回分の料金で、購入から1年間、季節の所蔵品展と小企画展を何度でも鑑賞できるお得なチケットです。年間パスポートは美術館の受付窓口で取り扱っています。お気軽にお声掛けください!